

薬剤耐性菌を増やさないために

不必要な時に抗菌薬をのまない

抗菌薬はかぜを治す万能薬ではありません。
かぜやインフルエンザの原因となるウイルスに、
抗菌薬はそもそも効果がありません。
必要のない抗菌薬を求めないようにしましょう。
わからないことは、お医者さんか薬剤師さんに聞きましょう。

抗菌薬を処方されたらきちんとのみましょう

お医者さんはあなたの体に合わせた抗菌薬を処方しています。
処方された抗菌薬は、お医者さんの指示どおりにのみましょう。
とってにおいて、別の機会にのんではいけません。
また、他の人の抗菌薬をもらったり、あげたりしてはいけません。

感染症を防ぎましょう ◆日頃からの体調管理と予防が大切です

正しい手洗い

◆ 石けんと水でよく洗いましょう。アルコール性の手指消毒剤も有効です。

咳エチケット

◆ 咳やくしゃみのしぶきがとばないようにマスクをきちんとつけましょう。
マスクがない時はハンカチや袖の内側で口や鼻を覆いましょう。

ワクチン接種

◆ 感染症には、ワクチンで予防できるものがあります。



— 未来に使える抗菌薬を残すことが、今の私たちに課せられています —

薬剤耐性

かぜに抗菌薬は効きません!!

はたらく細胞

© 清水貴 / 講談社・アニプレックス・davidproduction



抗菌薬はかぜの症状に効く 万能薬ではありません

かぜをひいたり熱が出た時に、自宅にとっておいた抗菌薬を
自己判断でのんだり、処方を求めたりするのはやめましょう
抗菌薬の不適切な使用により薬剤耐性菌が生じやすくなり
薬が効かない菌による感染症は治療が難しくなります
かぜをひいたら、じゅうぶんに休みましょう
感染対策もお忘れなく



ウイルスに 抗菌薬は効きません。



薬剤耐性菌とは？



私たちの皮膚や腸などの体の中には、無数の細菌(常在菌)が共生し、健康が保たれています。この中に抗菌薬が効かない細菌(=薬剤耐性菌)がわずかながらいることがあります。外から細菌が体に入って病気を引き起こした時に、治療のため抗菌薬をのむと、病気の原因となる細菌と共に常在菌も一緒に排除されて、薬剤耐性菌が残ることがあります。他の菌がいなくなると、薬剤耐性菌には棲みやすい環境になって増えることができます。

▼ 薬剤耐性菌が増える仕組み ▼



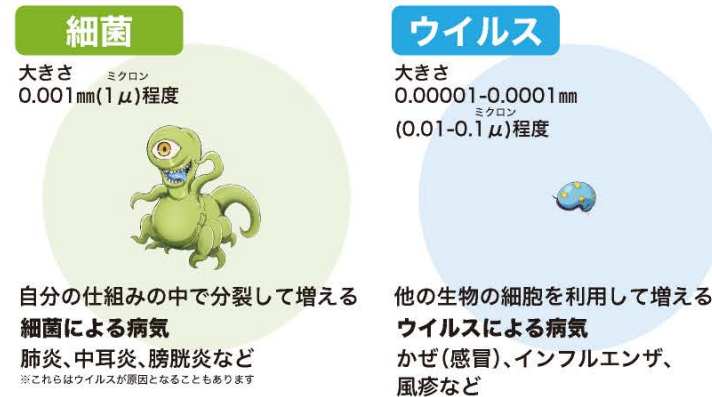
薬剤耐性は世界規模で取り組んでいる課題です

薬剤耐性菌は世界中で問題となっています。このまま何の対策も講じなければ、アジア・アフリカを中心に年間1,000万人が死亡するという状況が予測されています。一方で近年、新しい抗菌薬はなかなか開発されなくなっています。数十年後には、抗菌薬が効かない菌が世の中に蔓延してしまう恐れがあります。世界保健機関(WHO)では、2015年に薬剤耐性に関する国際行動計画が採択され、日本でも2016年から始まった薬剤耐性(AMR)対策アクションプランは2023年に新たにまとめられ、薬剤耐性に対する取り組みは引き続き行われています。

*<https://news.un.org/en/story/2019/04/1037471>
No Time to Wait: Securing the future from drug-resistant infections
Report to the Secretary-General of the United Nations April 2019

細菌とウイルスはどこが違うの？

細菌もウイルスも日常では目に見えない小さな生物です。小さいながらも、これらは、大きさ、からだのつくり、増え方が違う、まったく異なる生き物です。細菌もウイルスも人に感染しますが、すべての細菌やウイルスが病気を起こすわけではありません。



「抗菌薬」は「細菌」に対抗するために作られた薬です かぜの原因はウイルスです! 抗菌薬は効きません

「かぜをひいたから医者さんで抗菌薬(抗生物質)をもらって早く治そう……」
そんなふうに思ったことはありませんか。
かぜやインフルエンザの原因はほとんどがウイルスです。
抗菌薬は細菌に効果がある薬なので、ウイルスが原因となるかぜにはまったく効果がありません。
かぜのときに抗菌薬をのんでよくなってきたなと感じたなら、それは抗菌薬の効果ではなく、あなた自身の免疫でウイルスをやっつけたからかもしれません。

抗菌薬が効かないのは 薬剤耐性菌が原因かもしれません

薬剤耐性菌が増えると、本当に必要な時に抗菌薬の効果が得られなくなります。そうすると、感染症の治療や手術時の感染予防が難しくなるだけでなく、臓器移植、抗がん剤治療など、さまざまな医療が困難となりかねません。

抗菌薬を正しくのまないで副作用が出たり、薬剤耐性菌が増える原因になります



人だけの問題ではありません

抗菌薬は人や動物の医療以外にも、畜産、水産、農産物などあらゆる領域で使われています。薬剤耐性微生物は人から人だけではなく、食品や環境などを介して人へ伝播する可能性や、また逆に人から動物や環境に伝播することも指摘されています。人の健康だけでなく、動物の健康や環境の保全にも気を配ることが大切です。それらに関わるさまざまな分野の人々が連携して課題解決に取り組んでいくことを「ワンヘルス・アプローチ」といいます。

